

5 小児がんの進捗状況について

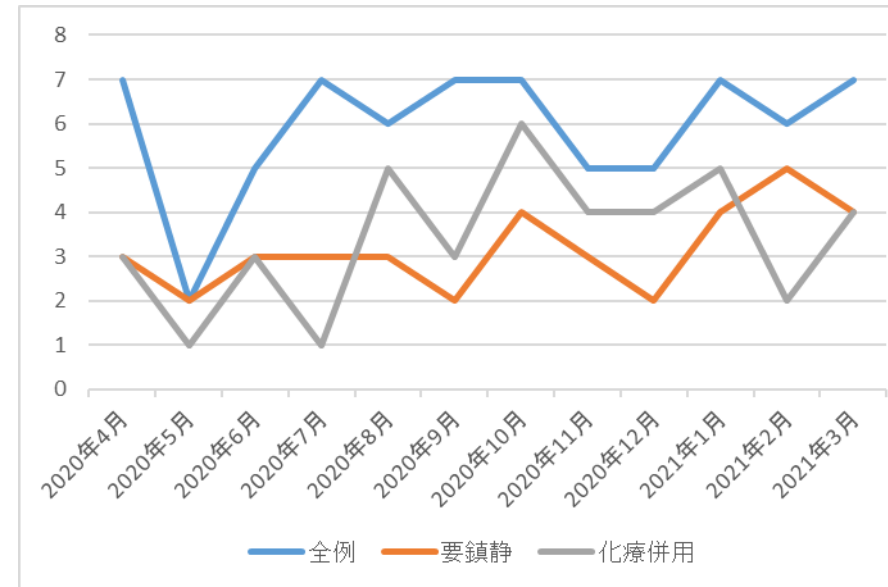
項目	内容
令和2年度の活動報告	(1)研修教育:看護研修会 今年度は3回シリーズ予定 1回目: 2020年7月4日(土)基礎編 2回目、3回目: 2020年10月、11月(予定;テーマ未定) ⇒2回のみハイブリッドにて施行 近畿ブロック小児がん拠点病院主催小児がん看護研修・小児がん相談員合同研修 12月(予定)⇒ 延期Web開催R3.2.13 LCAS(Lifetime Care and Support for Child,Adolescent and Young Adult: 「小児・AYA世代のがんの長期フォローアップに関する研修会」)実施 ⇒Web開催 R2. 11.7 地域内研究会・講習会の継続実施 6月頃兵庫県小児血液腫瘍症例検討会⇒中止 11月頃小児がん治療講演会 1月頃小児がんの薬物開発⇒中止 (2)情報連携:地域内がん相談支援室との連携による機能拡大。 兵庫県がん・生殖医療ネットワークとの連携によるAYA世代がん患者の妊孕能温存処置の拡大・ 促進、特に卵巣凍結保存 今年度5例 (3)がん登録:専任職員を用いた地域がん登録の継続実施。 (4)緩和医療:緩和医療チームの活動促進、緩和ケア診療加算推進 (6)医療連携 ・小児がん拠点病院連携会議(計3回、1回は中止、2回はWeb開催) ・小児がん診療病院との連携 連携会議(近畿は年2回程度予定⇒Web7月25日、R3.2.12) 中四 国ブロック R3.1.9 Web 再発難治例の集約化と標準治療群均てん化 再発難治例の集約化と標準治療群均てん化⇒悪性腫瘍新患年間140例(陽子線治療含む) ・小児がん診療病院とのTV会議(8月、12月除く毎月) ・兵庫県立神戸陽子線センターとの連携 さらに症例の集積⇒小児例66例(全国最多) ・当院Tumor Board(週1回)への他院からの参加奨励⇒現在中止 (7)臨床研究:JCCGを中心に計画されている国際臨床試験への積極的参加 小児悪性腫瘍に対する陽子線治療の観察研究の実施(脳腫瘍で開始予定⇒開始) 臨床研究法対応、特に小児の場合適応外薬剤(特定臨床研究扱い)対策 (8)AYA世代(高校生)の教育支援さらなる促進 ・遠隔双方向授業推進 県立高校生で実現 ・ボランティアなどを活用した高校生に対する教育支援事業の実施⇒現在休止 (9)国際協力推進事業(平成29年度医療技術等国際展開推進事業(NCGM事業)) (10)人材確保・教育 Child Life Specialist(CLS)確保 専門看護師・薬剤師養成 若手医師の交流 ⇒愛媛大学より若手医師1名の研修受け入れ

項目	内容
令和3年度の活動計画	(1)研修教育:看護研修会 詳細は未定 Web開催を予定 近畿ブロック小児がん拠点病院主催小児がん看護研修・小児がん相談員合同研修 12月(予定) Web開催も考慮 LCAS「小児・AYA世代のがんの長期フォローアップに関する研修会」実施⇒従来厚労省より日本小児血液・がん学会への委託事業であったが、昨年度から小児がん拠点病院事業へ移管された。 Web開催予定(時期未定) 地域内研究会・講習会の継続実施 6月頃兵庫県小児血液腫瘍症例検討会 Web予定 11月頃小児がん治療講演会(未定) 1月頃小児がんの薬物開発(未定、Webも) (2)情報連携:地域内がん相談支援室との連携による機能拡大。兵庫県がん・生殖医療ネットワークとの連携によるAYA世代がん患者の妊孕能温存処置の拡大・促進、特に卵巣組織凍結保存 (3)がん登録:専任職員を用いた地域がん登録の継続実施。 (4)緩和医療:緩和医療チームの活動促進、緩和ケア診療加算推進 (6)医療連携 ・小児がん拠点病院連携会議(計3回予定、次回7月Web)、MLリストの開設 ・小児がん診療病院との連携 連携会議(近畿は年2回程度予定、次回6月予定Web) 中四国ブロック R4.1.8 再発難治例の集約化と標準治療群均てん化 ・小児がん診療病院とのTV会議(8月、12月除く毎月) ・兵庫県立神戸陽子線センターとの連携 さらなる症例の集積 ・当院Tumor Board(週1回)への他院からの参加奨励⇒当面中止 (7)臨床研究:JCCGを中心に計画されている国際臨床試験への積極的参加 小児悪性腫瘍に対する陽子線治療の観察研究の実施(脳腫瘍で開始) 臨床研究法対応、特に小児の場合適応外薬剤(特定臨床研究扱い)対策 (8)AYA世代(高校生)の教育支援さらなる促進 ・遠隔双方向授業推進 ・ボランティアなどを活用した高校生に対する教育支援事業の実施⇒コロナ禍のため (9)がんゲノム連携病院として診療体制整備。がんゲノム外来開設。 R3年2月27日小児がん連携病院向けWeb講演会開催。 (10)人材確保・教育 Child Life Specialist(CLS)確保 専門看護師・薬剤師養成 若手医師の交流 R3年度も愛媛大学より医師研修を1名受け入れ。

小児がん陽子線治療症例

R2年度

月別詳細	全例	要鎮静	化療併用
2020年4月	7	3	3
2020年5月	2	2	1
2020年6月	5	3	3
2020年7月	7	3	1
2020年8月	6	3	5
2020年9月	7	2	3
2020年10月	7	4	6
2020年11月	5	3	4
2020年12月	5	2	4
2021年1月	7	4	5
2021年2月	6	5	2
2021年3月	7	4	4
累計	178	94	94



年度別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
2017年度												3	3
2018年度	2	7	3	6	3	2	2	4	4	3	5	3	44
2019年度	5	6	2	5	6	5	8	6	6	3	2	6	60
2020年度	7	2	5	7	6	7	7	5	5	7	6	7	71

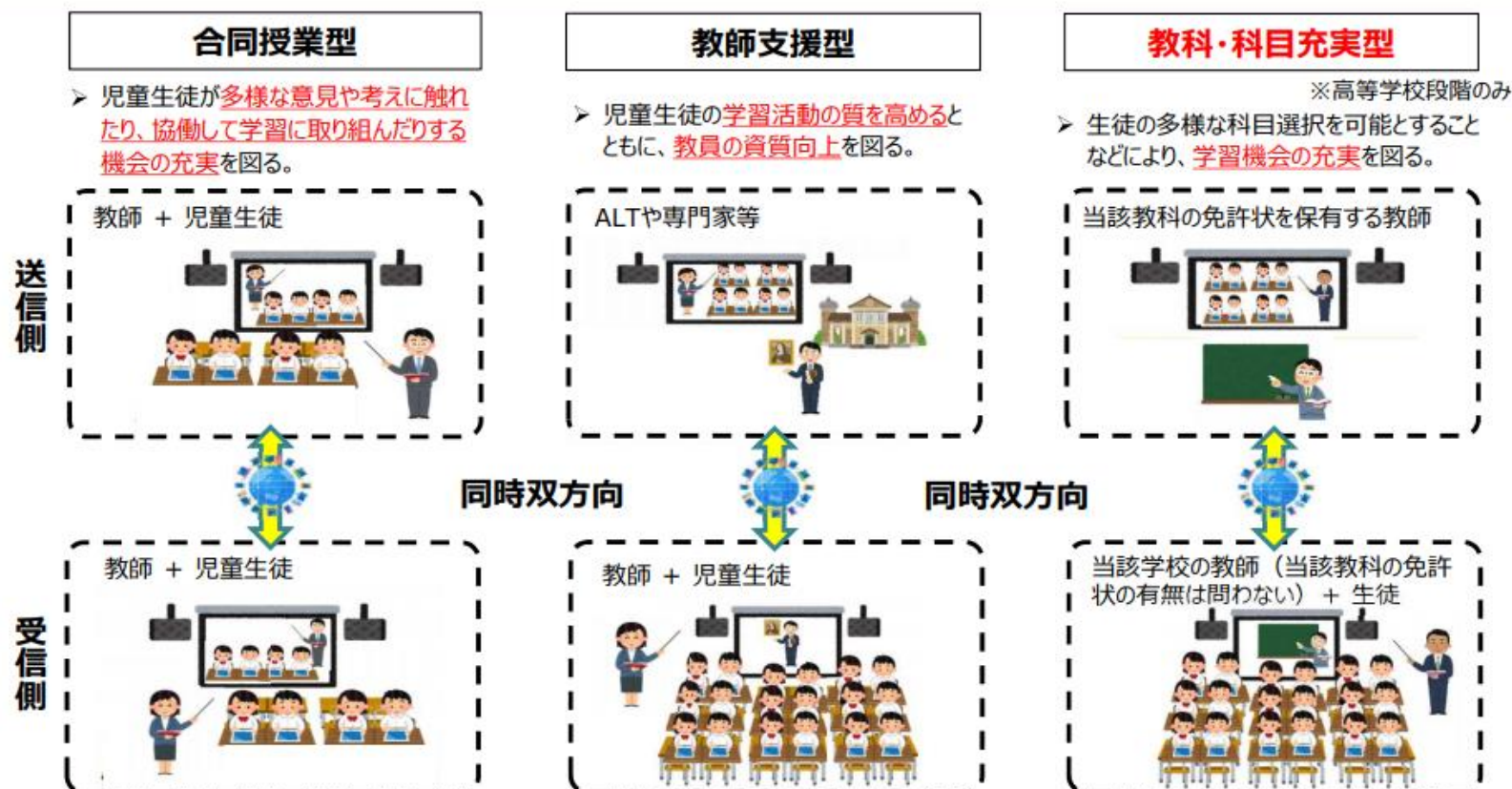
兵庫県立こども病院におけるオンコパネル検査実施状況

	初発時 年齢	性	病名	提出時 年齢	病期	検査	オンコパネル	マイクロサテ ライト不安定 性	TMB
1	6歳	F	Yolk sac tumor	13歳	4th relapse	Foundation One	CTNNB1変異 (exon3: c.T97C)活性化変異	安定	Low
2	6歳	F	NBL	11歳	3rd relapse	Foundation One	ATRX遺伝子欠失(exon3-9), NTRK変異(-),	安定	Low
3	5歳	F	MBL	9歳	2nd relapse	Foundation One	AKT3遺伝子増幅, CCDN2遺伝子増幅, BCL2L1遺伝子増幅, MLL2欠失(Q3910_Q3911del)	安定	Low
4	3歳	M	AT/RT	6歳	1st relapse	Foundation One	SMARCB1変異(+)	安定	Low
5	14歳	M	EPN	17歳	2nd relapse	Foundation One	CDKN2A/2B欠失, ARID1A, CREBBP, RAD51B変異	安定	Low
6	4歳	F	MBL	9歳	1st relapse	Foundation One	MYCN遺伝子増幅	安定	Low
7	8ヵ月	F	CNS embryonal tumor	3歳	1st relapse	Foundation One	TP53 V216L変異, ARD1A, CIC, FLT1, GATA6, SPEN, XRCC2変異	安定	Low
8	6歳	F	Ewing sarcoma	13歳	1st relapse	Foundation One	EWS-ERG変異(+), TSC2 A678T変異, EP300L1787fs*78変異	安定	Low
9	8歳	F	EPN/GBL	13歳	2nd cancer	Foundation One	ATM変異(+), PDGFRA変異(+)	安定	Low
10	1歳	M	mesenchymal tumor	1歳	onset	Foundation One	EGFR exon20 insertion	安定	Low

高等学校における遠隔授業【教科・科目充実型】

（１）遠隔授業【教科・科目充実型】の制度化

- 平成27年4月より、高等学校の全日制・定時制課程における遠隔授業【教科・科目充実型】を正規の授業として制度化し、対面により行う授業と同等の教育効果を有するとき、受信側に当該教科の免許状を持った教員がいなくても、同時双方向型の遠隔授業を行うことができることとしている。
- これにより、高等学校段階において、先進的な内容の学校設定科目や相当免許状を有する教師が少ない科目（第二外国語等）の開設、小規模校等における幅広い選択科目の開設等、生徒の多様な科目選択を可能とすること等により、生徒の学習機会の充実を図る。



高等学校における遠隔授業【教科・科目充実型】

（２）遠隔授業【教科・科目充実型】を行う際の主な留意事項

生徒数	・同時に授業を受ける生徒数は、原則として40人以下とすること。
配信側	・受信側の高等学校等（生徒の在籍する高等学校等）の身分を有すること。 ・学校種や教科等に応じた相当の免許状を有すること。
受信側	・原則として 教員を配置するべき であること。 ※ただし、病室等において病気療養中の生徒等に対して遠隔授業を行う場合には、教員配置は必ずしも要しない（その場合には、病室等での適切な体制整備が必要）
学習評価	・単位認定等の評価は、配信側の教員が行うべきであること。（受信側教員はそれに協力）
その他	・遠隔授業を行う教科・科目等の特質に応じ、 対面により行う授業を相当の時間数行うこと。 ・ 36単位を上限 とすること。 ※ただし、病室等において病気療養中の生徒等に対して遠隔授業を行う場合には、単位数上限の算定には含めない

（３）病気療養中の生徒等に対して行う場合の要件緩和

- 病室等における**病気療養中の生徒等に対し同時双方向型の遠隔授業を行う場合の特例**として、令和元年11月には**受信側の病室等に当該高等学校等の教員を配置することは必ずしも要しないこと**とするとともに、令和2年4月には**修得単位数の上限（36単位）の算定に含めないこと**とする制度改正を実施。

（参考）関係法令抜粋

令和2年4月より遠隔授業の単位数上限(36時間)が撤廃された

■学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）

第88条の3 高等学校は、文部科学大臣が別に定めるところにより、授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室以外の場所で履修させることができる。

第96条 校長は、生徒の高等学校の全課程の修了を認めるに当たっては、高等学校学習指導要領の定めるところにより、74単位以上を修得した者について行わなければならない。ただし、（略）

2 前項前段の規定により全課程の修了の要件として修得すべき74単位のうち、第88条の3に規定する単位数は36単位を超えないものとする。ただし、疾病による療養のため又は障害のため、病院その他の適当な場所で医療の提供その他の支援を受ける必要がある生徒であつて、相当の期間高等学校を欠席すると認められるものについては、この限りでない。

第8回高校WG資料「高等学校段階における遠隔教育の現状について
：文部科学省初等中等教育局参事官（高等学校担当）」（令和2年6月2日）

近畿ブロック小児がん拠点病院相談支援部会 主催 小児がん相談員研修(Web開催)

「小児がんにおけるゲノム医療と遺伝性腫瘍」

2021年2月13日(土) 13:30~15:00

WEBEX 受付13:00~

【目的】

- ・小児がんにおけるがんゲノム医療と遺伝性疾患に関する基本的知識を習得し小児がんをもつ子どもと家族を支援できる人材を育成する
- ・近畿ブロックにおいて小児がんA Y Aがん患者を支援する看護師、相談員の連携を強化する

【対象】

近畿ブロックにおける小児がん・A Y Aがんの患者と家族に関わる相談員、看護師など

時間	内容
13:30~13:35	オリエンテーション、相談員挨拶(近畿ブロック拠点4病院)
13:35~13:45	近畿ブロック小児がん拠点病院相談支援部会の活動報告
13:45~13:50	小児がん医療センター長挨拶
13:50~14:20	座長 副院長兼小児がん医療センター長 小阪 嘉之 講義①「小児がんにおけるゲノム医療」 講師:兵庫県立こども病院 血液・腫瘍内科部長 森 健
14:20~14:50	講義②「小児でみられる遺伝性腫瘍」 講師:兵庫県立こども病院 臨床遺伝科部長 森貞 直哉
14:50~15:00	質疑応答・まとめ

*下記QRコードもしくはURLからお申込み下さい(締切:1月29日(金))

<https://forms.gle/cFoSuW1gWYV315566>

参加申し込みをいただいた方には後日参加URLをお送りさせていただきます。

開催1週間前までに参加URLが届かない場合は、お手数ですが下記担当施設までお問合せください。



研修主催

近畿ブロック小児がん拠点病院相談支援部会

大阪市立総合医療センター

京都大学医学部附属病院

京都府立医科大学附属病院

兵庫県立こども病院(企画運営担当施設)がん相談支援室(担当:栗林、中谷)

電話:078-945-7300(代表) メール:kodomo_gansoudan_kch@hp.pref.hyogo.jp



小児がん カンファレンス

日時

令和 3 年 6 月 25 日(金)
18:00 – 20:00

当番病院

兵庫県立こども病院

完全 web 方式

事前登録いただければ研究会 URL を送ります。

当番世話人

小阪嘉之

(兵庫県立こども病院小児がん医療センター)

(第 1 報)

演題募集

特にテーマは定めません。固形腫瘍、血液腫瘍問わず演題をご応募ください。

参加費

無料

協賛企業

なし

当番事務局

兵庫県立こども病院
小児がん医療センター
血液・腫瘍内科

長谷川大一郎

e-mail:

hasegawa_kch@
hp.pref.hyogo.jp

TEL: 078-945-7300

FAX: 078-302-1023

2021年度

小児・AYA世代のがんの長期フォローアップに関する研修会

LCAS -Lifetime Care and Support for Child, Adolescent and Young Adult Cancer Survivors

開催にあたって

小児・AYA世代（思春期・若年成人）のがんの治療成績は向上していますが、治療終了後に出現するさまざまな問題については医療者の間でさえ、まだ十分な理解が得られていません。このたび、小児・AYA世代のがんの長期フォローアップと小児から成人への移行期医療の重要性を、医師・看護師および関係する多職種の方々に認識していただくため、2017年度から継続している厚生労働省委託事業の一環として研修会を開催いたします。昨年度に引き続き、コロナ禍にてWEB開催となりますが、皆様のご参加をお待ちしております。

WEB開催
(Zoomミーティング)

 **第1回** 2021年 **08月28日**（土） 10:00～16:00(予定)

主幹：北海道大学病院

 **第2回** 2021年 **10月02日**（土） 10:00～16:00(予定)

主幹：九州大学病院

 **第3回** 2021年 **12月18日**（土） 10:00～16:00(予定)

主幹：大阪市立総合医療センター

 **第4回** 2022年 **02月06日**（日） 10:00～16:00(予定)

主幹：神奈川県立こども医療センター



参加費 無料 *ただし、受講のために要する費用（宿泊、交通費、インターネット接続費等）は受講者負担となります

募集人数 各回 45名程度（WEB開催のため、個人参加を原則とします）

募集期間
第1回 2021年 7月12日(月) 9:00 から 7月16日(金) 15:00まで
第2回 2021年 8月23日(月) 9:00 から 8月27日(金) 15:00まで
第3回 2021年11月 1日(月) 9:00 から 11月 5日(金) 15:00まで
第4回 2021年12月13日(月) 9:00 から 12月17日(金) 15:00まで



申し込み方法 下記HP の申し込みフォームよりご応募ください。
<http://www.jspho.org/lifetime-care-and-support>

応募資格 医師(臨床経験5年以上)、看護師(臨床経験3年以上)、ソーシャルワーカー、心理士、理学療法士、作業療法士、薬剤師、保育士、チャイルドライフスペシャリスト、ホスピタルプレイスペシャリスト、特別支援学校教員(病弱)、など

受講者の決定 応募者多数の場合は人数等の制限させていただくことがございます。参加の可否については、締め切り後にご連絡いたします。また、予定人数に達した場合は募集期間前に締切ることがございます。

講義内容 当研修会はe-Learningと集合研修で構成されています。
各日程の研修会へお申込みいただき、参加が確定しましたら、研修会2日前までに、e-Learningの受講をお願いいたします。

お問い合わせ先 〒157-8535 東京都世田谷区大蔵2-10-1

一般社団法人 日本小児血液・がん学会
国立研究開発法人 国立成育医療研究センター 小児がん中央機関事務局内 LCAS担当
電話：03-3416-0181(代表) E-mail：lcas@ncchd.go.jp

2021年 Web開催!

兵庫県立こども病院

小児がん看護研修

看護部・小児がん相談支援室・緩和ケアチーム主催

参加費無料

基礎編

7月17日(土)
10:00~
16:00

テーマ

小児がんの特徴と最新の動向

小児がんの代表的疾患と治療概論

小児がん看護概論

小児がんをもつ子どもの症状マネジメント

講師

副院長兼小児がんセンター長 小阪 嘉之

血液腫瘍内科医師 石田 敏章

小児看護専門看護師 中谷 扶美

がん化学療法看護認定看護師コース修了 木下 めぐみ



基礎編のお申込みはこちらから！
WebでのGWも予定しています。



トピックス①

晩期合併症と長期フォローアップ

9月4日(土)

13:00~16:40

「小児がん治療後の晩期合併症と長期フォローアップ」

講師：血液腫瘍内科医師 神前 愛子

「長期フォローアップにおける看護」

講師：京都大学大学院 医学系研究科

人間健康科学系専攻 博士課程

小児看護専門看護師 竹之内 直子

「長期フォローアップにおける患者と家族の看護の実際」

GW 進行：小児看護専門看護師 栗林 佑季

トピックス②

終末期看護

10月2日(土)

13:00~16:40

「終末期にある小児がんをもつ子どもと家族の看護」

講師：京都大学医学研究科 准教授 松岡 真里

「終末期にある小児がんの子どもと家族の看護の実際」

GW 進行：緩和ケア認定看護師 塚田友紀

トピックス編
申し込みは
こちら！



ご注意

※基礎編、トピックス編別々の申し込みになります。下記 URL か上記 QR コードから申し込みフォームでお申込みください。QR コードをご利用になられない方は、必要項目をご記入の上、下記アドレスへメールでお申込みください。

基礎 <https://forms.gle/t64D2FLwfPbUj6JX6>、トピックス <https://forms.gle/sdTKeDfTA6iqpBJfA>

※申込締切：基礎編 6月16日正午、トピックス編 8月2日正午です。ご注意ください。申し込み多数の場合は、期日前に締め切らせていただくことがあります。ご了承ください。

※当日は Web 研修に対応できるインターネット環境・機器でご参加くださいますようお願いいたします。原則、遅刻、途中退室は厳禁です。

※詳細・申込は別紙を参照ください。

※受講受付については、改めてメールでご連絡いたします。受講日の 1 週間前までに参加 URL が届かない場合は、お問い合わせいただきますようお願いいたします。

◆お問い合わせ：TEL:078-945-7300（代表）担当：看護部次長 武田 志乃

Email：kodomo_manabi_kch@hp.pref.hyogo.jp

～ 兵庫県立こども病院 がん相談支援室主催 ～

小児・AYA世代がん患者家族教室
「晩期合併症と長期フォローアップ」

日時

2022年1月15日(土)

13:30～15:30

先着

10組

方法

オンライン開催

対象

小児がん経験者の患者様とご家族

患者様ご本人が参加される場合は、治療終了後2年以上、
高校生以上で自身の病気・治療をご存知の方が対象です。

現在、小児がんの80%以上が治癒すると考えられています。しかし、治療後何年も経ってから、治療の影響や病気の影響が出てくる可能性があることがだんだんとわかってきました。過去に受けた治療内容を把握して、健康管理に役立てられるように一緒に考えていきたいと考えています。

内容

- 13:30～ 挨拶、がん相談支援室の紹介
- 13:40～ 講演「小児がん治療と晩期合併症」
- 14:10～ 講演「長期フォローアップ」
- 14:40～ グループワーク
(長期フォローアップ手帳の活用)
- 15:20～ まとめ



お申込み

準備の都合上、**2021年12月10日(金)までに**、下記URLもしくはQRコードにてGoogleフォームよりお申し込み下さい。
定員に達した場合、期限前に締め切らせていただくことがありますのでご了承ください。

URL ➡ <https://forms.gle/PAAVGPjVQMehk7Yt8>



〈お問い合わせ先〉

TEL: 078-945-7300 (代表)

看護相談・がん相談支援室 (平日10:00～12:00、13:30～16:00)

外来1階Eブロック受付 (平日9:00～16:00)

第11回 ひょうご県民がんフォーラム

日 時：令和3年10月23日（土）

場 所：兵庫県民会館 9階「けんみんホール」

開催形態は未定

（今後の新型コロナウイルス感染状況を見極めて決定）

テーマ：「小児とAYA世代のがんについて」（仮）

AYA: Adolescent & Young Adult (思春期・若年成人)

主催：兵庫県がん診療連携協議会 共催：兵庫県立こども病院

プログラム(案)

1. 小児・AYA世代がんについて

～特徴と成人がんとの違い～

神戸大学大学院医学研究科 内科系講座 小児科学分野
こども急性疾患学部門 特命講師 山本暢之先生

2. 小児・AYA世代がんに対する新規治療について

～抗体療法やCAR-T細胞療法を中心に～

京都大学大学院医学研究科発達小児科学講師 平松英文先生

3. 小児・AYAがんの晩期合併症と長期フォローアップ

～治療終了後の将来のために知っておくべきこと～

兵庫県立こども病院血液腫瘍内科部長 石田敏章先生

4. 小児・AYAがんの放射線治療

～陽子線治療で将来の晩期合併症を減らそう～

兵庫県立粒子線医療センター附属神戸陽子線センター センター長
副島俊典先生

小児がん診療施設 情報公開

医療機関名

兵庫県立こども病院	
住 所	兵庫県神戸市中央区港島南町1-6-7
施設ホームページ	http://www.hyogo-kodomo-hosp.com/
<<患者相談窓口>>	
名 称	がん相談支援室
電 話	078-945-7300(代表)
F A X	078-302-1023(代表)
メールアドレス	
対応可能時間	月～金曜日 9:00～17:00
<<医療機関相談窓口>>	
名 称	予約センター
電 話	078-945-7300(代表)
F A X	078-302-1023(代表)
メールアドレス	
対応可能時間	月～金曜日 9:00～17:00

施設の特徴(アピール)

当院は小児専門病院であり、外科系各科と放射線科と連携して、あらゆる小児がんの集学的治療が可能。小児集中治療科と協力し、oncologic emergencyにも柔軟に対応できる体制を敷いている。また、近畿ブロックの小児がん拠点病院の中で最も西に位置することから、中四国地方の病院とも積極的に連携を図っており、難治例の紹介を受け入れている。さらに、造血幹細胞移植や陽子線治療にも積極的に取り組んでおり、陽子線治療については神戸陽子線センターと協力して専任麻酔科医の協力を得つつ、鎮静が必要な年少児についても積極的に治療を施行している。

診療受け入れ容量

小児がん病床(対応可能数)	54
集中治療床(うちPICU、HCU)	14
外来化学療法(◎実績あり、○可能)	◎
休日・夜間救急対応(◎院外患者対応可能(条件記載)、○院内患者のみ対応可能)	◎
フォローアップ外来(◎フォローアップ専門外来、○その他のほかの外来)(外来日)	◎ 月、木、金
小児がんセカンドオピニオン対応可能診療科	血液・腫瘍内科
	小児外科
	脳神経外科
	眼科
	放射線治療科、整形外科、耳鼻科、形成外科

診療実績(初発・再発別) (再発例は再発で紹介された症例のみ)	2019			2018			2017		
	初発	再発	合計	初発	再発	合計	初発	再発	合計
造血器腫瘍	42	0	42	30	3	33	44	2	46
急性リンパ性白血病	21	0	21	13	1	14	20	1	21
急性骨髄性白血病	8	0	8	4	0	4	3	0	3
まれな白血病	0	0	0	0	0	0	0	0	0
MDS/MPDのうちCML	1	0	1	1	0	1	0	0	0
MDS/MPDのうちCMLを除く	0	0	0	1	0	1	3	0	3
非ホジキンリンパ腫	6	0	6	4	2	6	4	1	5
ホジキンリンパ腫	1	0	1	0	0	0	1	0	1
その他のリンパ増殖性疾患	0	0	0	0	0	0	0	0	0
組織球症(HLH)	1	0	1	1	0	1	5	0	5
組織球症(LCH)	3	0	3	3	0	3	5	0	5
その他の組織球症	0	0	0	0	0	0	1	0	1
その他の造血器腫瘍	0	0	0	1	0	1	1	0	1
Down症TAM登録	1	0	1	2	0	2	1	0	1
固形腫瘍	73	5	78	66	4	70	55	2	57
神経芽腫瘍群	9	0	9	9	0	9	7	0	7
網膜芽腫	6	1	7	5	2	7	8	0	8
腎腫瘍	0	1	1	1	0	1	2	0	2
肝腫瘍	1	0	1	1	0	1	3	0	3
骨腫瘍	4	1	5	3	0	3	2	0	2
軟部腫瘍	11	0	11	10	0	10	5	1	6
胚細胞腫瘍(脳・脊髄病変以外)	9	0	9	2	0	2	7	0	7
脳脊髄腫瘍	32	2	34	31	2	33	21	1	22
その他の固形腫瘍	1	0	1	4	0	4	0	0	0
その他の固形腫瘍(具体名)				膝芽腫、 膝腫瘍、 乳児線維 性過誤					

※再発症例は、対象年において他施設から紹介された再発がんの症例です(自施設での再発症例は含みません)。

診療実績(入院数)	2019	2018	2017	2016	2015	2014
小児がん入院患者延べ数	937	923	910	661	640	529
小児がん入院在院延べ日数	17,086	15,465	14,593	10,408	11,735	9,644
全入院患者延べ数(施設全体)	6,203	5,886	4,131	3,625	4,682	3,367
全入院患者入院在院延べ日数(施設全体)	78,303	70,383	74,741	66,123	72,301	70,399

●小児がん診療施設の情報公開では、入院患者延べ数＝患者入院延べ回数として集計を行っております。
(がん患者さんが3回入院されれば3人となります)

診療実績(造血幹細胞移植)	2019	2018	2017	2016	2015	2014
同種造血細胞移植	16	12	12	9	10	9
同胞間造血細胞移植	2	2	1	4	0	3
家族間ハプロ造血細胞移植※	0	0	1	0	1	0
非血縁造血細胞移植	9	4	5	3	6	2
臍帯血移植	5	6	5	2	3	4
自家造血細胞移植	10	8	5	6	7	8
合計	26	20	17	15	17	17

※HLA完全一致または一座不一致の親子間移植も含みます

死亡患者数	2019	2018	2017	2016	2015	2014
血液腫瘍	3	1	1	2	6	0
固形腫瘍	5	2	2	1	4	1
脳・脊髄腫瘍	3	2	1	4	2	3
合計	11	5	4	7	12	4

集学的治療実施体制(10例/年以上:◎、可能:○)	化学療法	手術	放射線
固形腫瘍(下記以外)	◎	◎	◎
脳腫瘍	◎	◎	◎
眼・眼窩腫瘍	◎	◎	○
骨・軟部腫瘍	◎	◎	◎

療養環境・支援	
面会時間	10:00-22:00
面会可能者	両親
集中治療室面会時間	10:00～13:00 15:00～16:00 18:00～20:00
面会可能者	両親
付き添い(○不要、◎希望で24時間可能、□24時間必要、△夜間必要、▽その他(具体的に記載))	◎
入院可能年齢	明確な制限なし

相談窓口	○
患者家族宿泊施設(◎敷地内、○近隣)	◎
代表的施設名	神戸ハウス
患者同胞短時間預かり施設(◎院内、○近隣)	
患者家族休憩室(◎予約不要、○予約要)	◎
院内患者家族会(名称、連絡先)	さくらんぼの会、すずらんの会

院内学級(◎:分教室、○:訪問教育)	◎
通院患者の通学(○可能)	○
ベッドサイドでの授業(○可能)	○
高校生への教育支援体制(◎:分教室、○:訪問教育)	
通院患者の通学(○可能)	
ベッドサイドでの授業(○可能)	○
就学前児童保育	○

診療機能	
病理組織診断	○
放射線治療	○
臓器移植(対象臓器)	
非血縁同種骨髄移植認定施設	○
非血縁同種末梢血幹細胞移植認定施設	○
臍帯血移植認定施設	○
輸血・細胞療法センター	
集中治療部(◎小児専門もあり、○あり)	◎
長期フォローアップ(院外患者対応可:◎(条件記載)、院内患者のみ:○)	○
移行医療(院外患者対応可:◎(条件記載)、院内患者のみ:○)	○
緩和ケア(院外患者対応可:◎(条件記載)、院内患者のみ:○)	○
思春期・青年期がん診療(高校生以上)(◎実績あり、○可能)(対応可能年齢)(特色)	◎ 明確な制限なし 小児病棟だが可能な限り個室利用

専門資格保持者 (小児がん診療に実際に携わる人員)			
日本小児血液・がん学会 専門医	○	日本看護協会 がん化学療法看護認定看護師	○
日本小児血液・がん学会 指導医	○	日本看護協会 緩和ケア認定看護師	○
日本小児血液・がん学会 暫定指導医	○	日本看護協会 がん性疼痛看護認定看護師	
日本小児血液・がん学会 認定外科医	○	日本看護協会 がん放射線療法看護認定看護師	
日本小児外科学会 専門医	○	日本看護協会 摂食・嚥下障害看護認定看護師	○
日本小児外科学会 指導医	○	日本看護協会 皮膚・排泄ケア認定看護師	○
日本小児科学会小児科 専門医	○	日本病院薬剤師会 がん薬物療法認定薬剤師	○
日本小児神経学会 小児神経専門医	○	日本医療薬学会 がん専門薬剤師	
日本脳神経外科学会 脳神経外科専門	○	日本臨床細胞学会 細胞検査士	○
日本病理学会 病理専門医	○	日本医学放射線学会 医学物理士	○
日本血液学会 専門医	○	日本放射線治療専門放射線技師認定機構 放射線治療専門放射線技師	○
日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法専門医		日本臨床心理士資格認定協会 臨床心理士	○
がん治療認定医機構 がん治療認定医	○	日本病態栄養学会/日本栄養士会 がん病態栄養専門管理栄養士	
		日本人類遺伝学会/日本遺伝カウンセリング学会 認定遺伝カウンセラー	
日本放射線腫瘍学会 認定医	○	日本家族性腫瘍学会 家族性腫瘍カウンセラー	
日本緩和医療学会 緩和医療専門医		チャイルドライフスペシャリスト	
日本緩和医療学会 緩和医療認定医		ホスピタルブレイススペシャリスト	○
日本看護協会 がん看護専門看護師		子ども療養支援士	
日本看護協会 小児看護専門看護師	○	保育士	○
日本看護協会 地域看護専門看護師		ソーシャルワーカー	○

臨床研究 (小児がん診療に関する試験数)	
臨床研究支援センター	○
参加臨床試験数(治験を除く)	24
治験実施(有○)	○
治験実施内容	小児急性リンパ性白血病の再発患者に対するボルテゾミブを含む多剤併用化学療法の第Ⅱ相試験、急性骨髄性白血病を対象としたPKC412の第Ⅱ相試験、日本における再発または難治性のCD22陽性小児急性リンパ性白血病患者を対象としたイノトズマブ オゾガマイシンの第Ⅰ相試験